

全日空ホテルで人と落すことにした。まもなく、これまで何回となくち合う約束には少し時間く、「堂島米市場跡記念碑」の前に偶然、出た。かあったので、足の向く「碑」の前に偶然、出た。かあった。のままに堂島川周辺を散歩 ちよっと奥まっているの 碑の「米市場」の文字



米の筋

が目に留まった。この周りに各藩の米蔵が建ち並び、川辺に寄せられた船からお米を威勢よく運びこむ労働者の姿が版画となって、走馬灯のように浮かんで来た。当時の堂島川の果たした水運の役割の大きさに気付いた。

碑文に目を転じると、こう書かれていた。「享保15(1730)年幕府は堂島米市場に米の先物取引である帳合米取引を公認した。その取引の手法は現在の大阪証券取引所をはじめとする、世界各地に於ける組織された商品、証券、金融先物取引の先駆をなすものであり、先物取引発祥の地とされている。背後の像は昭和28年 彫刻家 横江嘉純氏により制作さ

れ、昭和30年、堂島米市場跡建碑会より寄贈されたものである」

思い出した。全国の米価格がここで決まり、幕府公認の取引所が設けられた1730年は、シカゴの商品取引所より100年も早い。これは大阪の誇りである。この誇りを今後どう発展させてい

たらいかと、心に留めるところでタイムアップとなった。

「感謝する」のところが衰退し、一家だんらんの食事風景も姿を消しつつある。その結果、不健康な身体、意思疎通のできない家族を生み、家庭崩壊に陥り、青少年の犯罪が増えつつある。日本古来の農耕文化のコアにある「お米」を見直し、一本は農耕文化をはぐくんできた。お互いに肩を寄せ合い、助け合って収穫したお米や野菜を食べることで、自然の恵みに感謝すると共に、仕事の達成感と幸せを味わっていたように思う。戦後、すべての生活が欧米スタイルになり、加工食品や個食の増加傾向が深まり、本来のうまみのある野菜の増加傾向が深まり、揚げ物や穀物が少なくなり、揚げ物の果てには農業の工業化まで進み、冷凍ギョーザ事件のようなことまで起きてしまった。日本古来の「育てる」

戦時中、体験学習とい



「お米をもっと大切に育てて」